

令和6年度

事業報告

社会福祉法人 長い坂の会

I	法人総括	2
II	高齢者福祉事業	
	[1] やすらぎの家 関連事業	
	1 特別養護老人ホームやすらぎの家	6
	2 短期入所生活介護やすらぎの家	16
	3 グループホームほのぼのの家	17
	[2] うららか春陽荘 関連事業	
	1 特別養護老人ホームうららか春陽荘	20
	2 短期入所生活介護うららか春陽荘(ショートステイ)	23
	3 デイサービスセンターはるかぜ	23
	4 デイサービスセンターそよかぜ(認知症対応型)	25
	5 高齢者住宅等安心確保事業 横浜ニュータウン	26
	6 うららかキッズガーデン(事業所内小規模保育施設)	27
	[3] 在宅介護センターわかくさ 関連事業	
	1 デイサービスセンターくつろぎの家	29
	2 デイサービスセンターわかくさの家(認知症対応型)	31
	3 小規模多機能型居宅介護わかくさ	33
	4 くつろぎの家 訪問入浴サービス	36
	5 高知市在宅介護支援センターあさくら	38
	6 高知市朝倉地域包括支援センター	41
	7 生活援助員派遣事業 若草	42
III	児童福祉事業	
	[1] うららか保育園 関連事業	
	1 うららか保育園	43
	2 特別保育事業	47
	3 放課後児童クラブ	49
	4 職員研修参加状況	51
IV	介護福祉士養成事業(公益事業)	
	[1] 平成福祉専門学校 関連事業	
	1 平成福祉専門学校	53
	2 介護福祉士実務者研修	55
	3 高校生就職支援事業(初任者研修)	55

I 法人総括

新型コロナウイルスは5類に移行された、世間は元の生活へと戻ったが、高齢者福祉施設では、感染への警戒は変わること無く、感染予防対策を柔軟にしつつも、ご利用者等の安全・安心を最優先としたサービス提供を行った。ただし、令和6年度は、感染予防・対策を講じた上で、徐々にではあるが、外部への活動参加やご家族との直接面会等、今までの日常に近づける環境の整備を行った。しかし、感染者を0にすることは難しく、感染拡大となった施設もあった。感染数は、下記の通りとなった。

令和6年度 新型コロナウイルス感染者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
職員	2	12	1	9	7	3	10	1	3	7	5	1	59
入所	1	12		4	4		7		1	3	2		33
在宅	1			4	3	2	3	1	1	2	3	1	20
保育				1		1				2			4
学校			1						1				2
利用者等	2	23	1	7	2	2	16	0	3	2	6	1	63
入所	1	22				1	15				1	1	40
在宅	1	1		4	2	1	1		1		4		14
保育													0
学校			1	3					2	2	1		9

人材確保では、少子化に加え若者の県外流出等により、福祉のみならず県内のあらゆる産業で人材不足の影響は顕著に表れ、中でも介護人材の確保は難しい状況となっているが、就職説明会や介護関係資格の養成機関で行われる施設実習の積極的な受け入れ等を行い、人材確保に努めた。また、退職予防策では、法人内施設への柔軟な配置転換や介護医療院「朝倉」等を含めた仁泉会グループとしての提案等を行うが、残念ながら複数の退職者があり下表の状況となっている。

令和6年度 入退職状況

	正規職員		契約職員		合計	
	本年度	前年度	本年度	前年度	本年度	前年度
採用者数	29	32	2	3	31	35
本部						
入所	17	23	2	2	19	25
在宅	11	6			11	6
保育	1	3		1	1	4
学校						

退職者数	32	30	3	6	35	36
本部		1				1
入所	18	21	2	1	20	22
在宅	12	4	1	3	13	7
保育	2	2		2	2	4
学校		2				2

経営状況は、入所施設では、安定した稼働が冬前まで続いていたが、冬場から新型コロナウイルスや体調不良者が増え、空床が続いてしまった。在宅サービスは、5類になった影響から若干の改善が見られた。ただ、目標の数値には及ばない施設がほとんどであった。保育事業は、少子化の影響が顕著となり、園児数は減少し、令和7年度から定員を130名から100名へと変更した。介護福祉養成事業は、少子化の影響が最も大きく、加えて高校生の進路は大学進学が中心となっており、学生確保の困難が厳しい経営状態へと繋がっている。学校の存在をもっと多くの人に知っていただけるよう、広報活動を広めていきたい。

令和6年度 活動実績

やすらぎの家拠点					うららか春陽荘拠点				
項目		本年度	前年度	増減	項目		本年度	前年度	増減
やすらぎの家 (106名)	稼働率	94.4%	94.0%	0.5%	うららか春陽荘 (80名)	稼働率	92.5%	93.4%	-0.9%
	1日平均	100.1	99.6	0.5		1日平均	74.0	74.7	-0.7
	入院日数	1,666	1,952	-269		入院日数	1,616	1,502	114
	空白日数	464	400	64		空白日数	546	436	110
	入所者数	36	47	-11		入所者数	43	44	-1
	退所者数	37	46	-9		退所者数	45	42	3
短期入所 (11名)	稼働率	45.5%	50.9%	-5.4%	短期入所 (20名)	稼働率	44.0%	40.5%	3.5%
	1日平均	5.0	5.6	-0.6		1日平均	8.8	8.1	0.7
ほのぼのの家 (9名)	稼働率	96.7%	98.9%	-2.2%	はるかぜ (25名)	稼働率	73.8%	54.3%	19.5%
	1日平均	8.7	8.9	-0.2		1日平均	18.45	16.3	2.2
	稼働率	60.0%	57.5%	2.5%	そよかぜ (12名)	稼働率	60.0%	57.5%	2.5%
	1日平均	7.2	6.9	0.3		1日平均	7.2	6.9	0.3

在宅介護センターわかくさ拠点				
項目		本年度	前年度	増減
くつろぎの家 (25名)	稼働率	72.0%	65.7%	6.3%
	1日平均	18.0	18.4	-0.4
わかくさの家 (12名)	稼働率	80.8%	77.5%	3.3%
	1日平均	9.7	9.3	0.4
小多機わかくさ (29名)	稼働率	99.3%	98.6%	0.7%
	1月平均	28.8	28.6	0.2
訪問入浴 (4名/日)	達成率	107.5%	102.5%	5.0%
	1日平均	4.3	4.1	0.2
居宅あさくら (44名/人)	稼働率	11.0%	10.5%	0.5%
	1人あたり	38.3	35.5	2.8

うららか保育園				
項目		本年度	前年度	増減
保育園 (130名)	定員充足率	75.8%	85.2%	-9.4%
	月平均	98.5	110.7	-12.2

平成福祉専門学校				
項目		本年度	前年度	増減
介護福祉士養成 (40名)	定員充足率	47.5%	35.0%	12.5%
	翌入学生	19	14	5

危機管理では、自然災害と感染症に対するBCPを拠点にて作成したが、他の拠点との連携等に課題を残す形になった。

(1) 令和6年度 理事会、評議員会、監事監査、開催状況

理事会

開催年月日	出席人数	決議事項
令和6年 6月6日(水)	理事6名 監事2名	第1号議案 令和5年度事業報告(案)及び決算報告(案)並びに監事監査報告について 第2号議案 諸規程一部変更について 第3号議案 評議員会開催について
令和6年 9月11日(水)	理事6名 監事2名	【書面開催】 第1号議案 諸規程一部変更
令和6年 12月20日(金)	理事6名 監事2名	第1号議案 資金収支第1次補正予算(案) 第2号議案 諸規程一部変更
令和7年 2月6日(木)	理事6名 監事2名	【書面開催】 第1号議案 特別養護老人ホームうららか春陽荘施設長退任について 第2号議案 特別養護老人ホームうららか春陽荘施設長就任について

令和7年 3月19日(水)	理事6名 監事2名	第1号議案 令和6年度 資金収支第二次補正予算(案) 第2号議案 令和7年度 事業計画(案) 第3号議案 令和7年度 資金収支当初予算(案) 第4号議案 評議員の退任と後任について 第5号議案 諸規程一部変更
------------------	--------------	--

評議員会

開催年月日	出席者数	決議事項
令和6年 6月20日(木)	評議員7名 監事2名	第1号議案 令和5年度事業報告(案)及び決算報告(案)並びに監事監査報告について 第2号議案 定款一部変更について

監事監査

開催年月日	出席者	報告事項
令和6年 5月21日(火)	梅田昭彦 中村文雄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業報告等の監査結果 <ul style="list-style-type: none"> 一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。 ・ 計算関係書類及び財産目録の監査結果 <ul style="list-style-type: none"> 計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

評議員選任・解任委員会

開催年月日	委員	指導事項
令和7年 3月19日(水)	高橋善則 島村長生 梅田昭彦 中村文雄 久保内大将	第1号議案 評議員の選任について

Ⅱ 高齢者福祉事業

[1] やすらぎの家 関連事業

【総括】

令和6年度は、選ばれる施設を目指し施設の特徴作りを掲げたが、現状は年間通し介護人材不足も補えず、目標を人材育成に重点を置き取り組みを行った。特養部門・グループホームと拠点全体で各種委員会の活動を通して職員一人ひとりが職責を持ち、介護職員を中心にご利用者の状況把握に努め、他職種一丸となり良いケア・サービスの向上に繋がるよう委員会活動の強化に取り組んだ。その結果、褥瘡・蜂窩織炎による入院軽減や、グループホームでの取組に良い刺激を受け特養部門でも支援に繋げたいなど、拠点内で情報共有し合える場としても良い結果を出す事が出来た。まだ課題はあるが、次年度も引き続き取り組んでいく。

稼働に関しては、特養部門は依然体調不良による入院が多く、改善も難しく退所に繋がる事案が続き年間を通して入退所の出入りが多い一年だった。入院者を出さないよう早めの受診を心がけ対応したが、個人疾患もあり入院減には至らなかった。ショート部門は、利用人数を10月に11名から5名に縮小し、長引く介護人材不足や入所者と同空間でのサービス展開から、感染症対策も対応しやすい環境に整えた。稼働は一時的に下がりはしたが、空床利用等も活用し利用は順調に増えつつある。ご利用者のコロナウイルス発症もゼロではなかったが、最小減の感染で対応でき、ここ数年続いていたクラスターは防げた。

グループホームは入退所3名あり、ここ2年余りで全体の8割のご利用者の入れ替わりがあった。比較的自立度が高いご利用者も増え活動的に行事等も実施した。また、協力医療機関の往診・訪問看護と連携した健康管理によりご利用者の健康状態も安定が保てている。

特養部門の感染対策に関しては、コロナウイルス感染症によるクラスターが5月に1件発生し、ご利用者21名、職員8名の感染者数となり、3名の方が医療機関に入院となった。このクラスターでの反省を下に医療職を中心に感染研修を小まめに実施し、その後は冬場に1～2名程度の感染者は出たが、感染対策に努め早期収束が出来た。

地域交流含むご家族・外部との交流は、特養・グループホーム共に大きくコロナウイルス5類前と変化はないが、直接面会を通してご家族に近況を伝え、行事の様子を写真で見ただけだったりブログでの情報発信など取り組んだ。地域交流も少しずつ以前のように地域イベントに参加させていただき、次年度に繋がる交流も出来た。今後も、予想される大規模災害を見据え地域の防災訓練にも積極的に参加させていただけるよう良い関係を構築していきたい。

1. 特別養護老人ホームやすらぎの家

(1) 介護部門

1年を通して職員一人ひとりが考えて行動できるよう感染対策への意識を高め、日常的に4S「整理・整頓・清掃・清潔」を課題に挙げ取り組んだが、まだ十分な改善は見られていない。毎月の部署会等で周知するも、職員各々の意識の違いがあり課題となっている。自分は出来ている、誰かがやるだろうと人任せにするのではなく専門職としての自覚や責任を持ち、グループの底上げに繋げていく必要がある。

各種委員会には全職員が参加し、グループの現状や課題を発信することで他部署との連携を図ることが出来た。徐々にではあるが外部研修にも参加し知識を習得する機会も増えている。今後は参加した職員だけでなく、その後に伝達研修ができるよう研修の場を設ける。

重大事故に関しては年間11件（誤薬6件、骨折4件、裂傷1件）発生した。事故を完全に防ぐことはできないが、ご利用者が安心して生活できる場を提供するために他部署と連携し、ご利用者の状態を把握しリスク軽減に努める必要がある。

ノーリフティングへの取り組みは徐々に職員に浸透してきている。まだ、福祉用具が十分充足してないので取り組むグループ内で差異はあるが、理学療法士と連携しご利用者に合った介助方法の見直しやポジショニングを行っている。

(1号館)

全体的に部署会や検討会での発信や発言は見られ、意見交換出来ていた。年間を通して、ご利用者の入退所が常にあったが他部署と連携をとり情報を共有し適宜対応出来ていた。特に事故委員を中心に環境や介助方法の見直しは行っていたが、決められた介助方法でない移乗介助したことで介護事故に繋がった事案が1件あった。福祉用具の活用を積極的に行っているが、もっと発信し意識を変える必要がある。ご利用者を安全に介助すること、職員の負担を軽減することを考え今後も福祉用具の見直し導入をしていく。

(2号館)

積極的に理学療法士とコミュニケーションをとり介助方法の見直しを行った。入浴介助にもリフトを使用し、皮下出血の減少やご利用者、職員双方の負担の軽減にも繋がっている。職員の4Sへの意識についてはまだまだの不十分で、ご利用者に気持ち良く過ごしていただくために、介護リーダー・各種委員を中心に4S運動を常に発信し日々のケアの一環として取り組んでいく。

(2) 生活相談員部門

今年度も新型コロナウイルス感染症により、地域貢献や家族会等、直接交流する行事は、検討段階で実現までには至らなかった。高知市社会福祉協議会の仲介で地域の小学校のボランティア活動には参加することができた。また地域の夏祭りに参加し交流することができた。入所待機者に対しては、入所指針に基づき適正に検討を行ない、入所に向けて迅速に対応できた。入所前の聞き取りについては、新型コロナウイルスの位置付けが5類になったことにより、直接、待機場所に行くことによって、より正確な情報を得ることができた。

(3) 介護支援専門員

粗暴行動や落ち着かないなどの様子が見られる方に対しては、何故そういう行動になっているかを観察し、これまでの生活歴等を含め考え、その方の意向に沿った関わりを持つように介護職員だけではなく他部署にも依頼した。また、自分で動くことが難しいご利用者に対しては寝食分離の考えから、寝たきりにならないように、少しでも離床して過ごす時間を設け、寝たきりにならないように努めた。また意思疎通が困難な方に対しても、スキンシップやコミュニケーションの大切さを介護職員に伝えてきた。

ご家族との関わりでは普段の様子を写真付きの手紙にしたため報告を行ったり、面会に来られた際に直接様子を伝えた。担当者会の報告以外でも、普段の様子を分かりやすく伝え信頼関係の構築に努めた。

(4) 給食部門

利用者の安定した生活の支援のため委託業者との連携した食事提供に努めた。取り組みとしては、味付けの安定化のため献立の見直し・訂正を行った。また年中行事や、祝日に行事食の提供、季節の食材を使ったイベント食や皿鉢の日などを企画立案し食事が栄養補給だけでなく、ご利用者に日常の楽しみと季節を感じてもらえる取り組みを行った。また、毎月給食部会を実施し他職種との意見交換を行い、利用者ニーズ・身体状況に合わせた食事提供に努めた。

栄養管理においては、栄養アセスメントにより利用者の栄養改善・維持、ご家族やご利用者のご希望に沿った食事・栄養管理への思いを栄養ケア計画の中に入れるよう取り組んだ。

防災面では、炊き出し訓練を実施し必要物品、手順などの確認を行った。

【イベント食】

4月	昭和の日
5月	憲法記念日、子供の日、母の日
6月	父の日、開園記念日（40周年）
7月	七夕、海の日、土用の丑の日（かば焼き実演）
8月	山の日
9月	敬老の日（施設行事用）、敬老の日、十五夜
10月	やすらぎ御前
11月	文化の日、勤労感謝の日
12月	郷土料理の日、冬至、大晦日
1月	正月料理、鏡開き、成人の日
2月	節分、皿鉢料理の日、建国記念日、バレンタインデー
3月	ひな祭り、春分の日

※ショートステイを含む

- ・令和6年11月25日 防災訓練（炊き出し）
- ・令和6年4月～令和7年3月 給食部会（毎月実施）
参加職種：CW、CM、NS、相談員、PT
- ・令和7年2月1日～15日 嗜好調査実施（聞き取り方式）

(5) 機能訓練部門

- ① ご利用者の状態を適宜確認し、記録の確認や職員に直接ヒアリングも行いながら介助方法の提案を行うことはできた。ただし、周知は十分に行えず今後の課題である。
- ② 福祉用具を積極的に使用していただくために研修や職員個別に伝達を行い、実際に福祉用具を使用する場面が増えてきている。今後ご利用者、職員双方の負担軽減のためにさらに使用が定着するように研修等を行っていく。
- ③ マットレスは定期的に調査し、ご利用者の身体に適したマットレスを選択していた。また介護職員にご利用者の状態や介助の行いやすさも聞きながら必要に応じて交換も行っていった。座面クッションも座位状態に応じて必要なクッションを使用するようにしていた。

(6) 医務部門

- ① 職員・ご利用者の健康管理について
令和6年度入院件数は91件（入院後退所した利用者：25名そのうち死亡退所：8名）
朝倉さわやかクリニックを早めに受診し、検査後施設で内服治療・療養で入院に至らないケースもあった。しかし、基礎疾患による生活レベル（食事）低下・健康維持低下によ

る入院や死亡退所もあり本年度も退所利用者の数は多かった。

入所判定会にて入所前の基礎状態を踏まえ、健康管理を実施しているが現状入所希望者の基礎疾患が重度で専門性のフォローが必要なケースが増えている。

また、職員の健康管理に関しては健康診断結果にて、特に食事の生活習慣が大きく影響していると思われるケースが多く、産業医と協力し、職員に生活習慣病予防の声掛けや受診を促すなど自己の健康管理の指導を行った。

② 感染対策について

ワクチンの実施（コロナ・インフル・肺炎球菌）を協力医療機関の協力の下、希望のご利用者の方のみ施設で施行（コロナウイルス予防接種年1回、インフルエンザ予防接種年1回）呼吸器感染症〔風邪等〕季節的な疾患・症状も多い月があり、協力病院・常駐医と連携し早期症状に対しての内服治療を医師の指示を受け対応できた。季節的な疾患・症状に対し環境整備は、不可欠であり日々の課題であるが環境整備の大切さや空調管理の意識付けは年々根付いていると感じる。

③ 内服薬・外用薬の管理について

内服管理での内服薬セットミスは、マニュアルのダブルチェックを怠った事案があり初歩的ミスが目立った。ヒヤリハットでの検証を医務室会で行い周知徹底を再度認識するよう行った。

④ 協力医療機関との連携について

各病院と専門的に確認、治療だけでなく症状を抑える事も踏まえ長く施設で生活できる様に努め、連携を行った。

⑤ 外部研修参加や地域の医療参加要望に対応

感染（コロナ）に対する現状把握のため、また予想される大規模災害での対応（感染）について外部研修参加できた。

(7) 事務部門

施設の窓口として「明るく、親切、丁寧、迅速」に対応できた。

① 居室の壁紙張替えや流し台の取替えなど環境整備を実施した。

② 多職種連携・多職種協働による協力体制は維持できた。

③ 地域防災活動には参加できなかったが、停電時の訓練を行うことにより問題点の把握・改善等に繋がった。

(8) 身体拘束廃止・虐待防止委員会

定例会、総会は年間を通して3回の開催を行い、定例会では各グループの取り組みの報告と課題について検討した。総会では、半期の取り組み内容の報告と評価を行い、各グループともに「良いケアの取り組み書」「虐待リスク検討シート」を活用しそれぞれの課題に対して取り組みを行う事で、ご利用者ケアの見直しやご利用者に合わせた言葉がけを行い対応方法を変えることで改善もみられている。

また内部研修では、委員達から積極的にこういう研修をやりたい！と意見を出し合い内容を決定した。これまでのように「×」を伝える内容ではなく、自分達で考え、自分自身を振り返るという内容の動画研修を行った。その中で1グループが不適切なケアではないがグレーゾーンと思われる事案があった。不適切なケアにならないよう、何回も臨時会を開催し原因分析・検討を行った。今後も不適切ケアを見聞きした時点でお互いが注意し合い、何故そうなったか速やかに検討・実施出来るよう取り組んでいく。また、委員会の中でグループホームのご利用者目線にこだわった対応や言葉がけの取組み内容を共有できたことで、特養職員の新しい気づきにもなり良い情報交換の場になっている。

(9) 事故防止委員会

令和6年度に発生した重大事故の件数は11件である。その内、介助方法や環境面で発生した事故も数件あった。専門職と共にご利用者の身体機能に応じた介助方法を検討し再発防止に努めた。また、ヒヤリハットを出してもらうために書類を簡素化し、気づきを発信しやすくした。その期間内に起こったヒヤリハット及び軽微な事故報告についてはグループ会振り返り対応策が妥当か検討した。

(10) 感染予防委員会

尿路感染・蜂窩織炎の入院「0」にはならなかったが、蜂窩織炎の発症は以前に比べ減少傾向となっている。しかし、尿路感染症に関しては今後も課題が残る。

コロナ感染症は年間で4回発症しており、隔離対応中にご利用者の保清と環境消毒感染拡大を防ぐための勤務体制を整えた

- ① 尿路感染・蜂窩織炎防止のための予防委員会の指導やチェックが不十分で課題が残った。それぞれの介護グループが異常に早く気づき、医療職への早期相談・対応ができたのではないかと課題が残る。課題が残り次年度へ持ち越し事案である。
- ② 陰部洗浄や水分補給の周知徹底は今後も継続して行う必要がある。
- ③ 手指衛生の必要性、標準予防策についての研修を行う事ができた。実際どこまで継続して理解・習得出来ているか、正確に現場で行えているかが今後の課題。
- ④ インフルエンザ感染対策マニュアルの見直し・作成、コロナウイルス5類移行後のコロナ感染対策マニュアルを見直し、変更して作成。実践に伴った振り返りが必要と課題も残る。

(11) 褥瘡予防委員会

予防と早期対応のため、委員が中心となった多職種が連携したケアを行うことを目標に 3 回の定例会と 2 回の総会を実施した。令和 6 年度剥離発生件数は 1 件（過去 4 年間平均発生件数は 8.5 件）、褥瘡発生件数は 4 件（過去 5 年間の平均発生件数は 5.6 件）。剥離、褥瘡ともに発生件数減少となった。毎月の介護グループ部署会での委員からの状況報告や日々の皮膚観察、理学療法士によるマットレス使用表作成・発信など各委員の専門性を活かした取り組みにより発生件数は減少傾向となっている。

【内部研修参加状況】

	研修名	研修場所
4 月	訓示・事業計画（施設長）	くつろぎホール
5 月	能登半島地震で見た福祉施設への介護職員等派遣の実際 排泄ケア（褥瘡委員会）	うららか春陽荘 くつろぎホール
6 月	食中毒予防（感染予防委員会①）	くつろぎホール
7 月	防災・震災訓練（事務主任） 禁煙について（安全衛生委員）	くつろぎホール
8 月	急変時に看護師が到着するまでの準備 （事故防止委員会①）	くつろぎホール
9 月	身体拘束廃止について（基本振り返り） 高齢者虐待防止（不適切なケア） （身体拘束廃止/虐待防止委員会①）	くつろぎホール
10 月	ハラスメント	くつろぎホール
11 月	感染・準予防策（感染予防委員会②）	くつろぎホール
12 月	バイタルの必要性和正常値（看護師） ノーリフティングケア（理学療法士）	くつろぎホール
1 月	ノーリフティングケア（理学療法士）	くつろぎホール
2 月	誤嚥・窒息があった場合の対処法（事故防止委員会②）	くつろぎホール
3 月	これって身体拘束？ アンガーマネージメント （身体拘束廃止/虐待防止委員会②）	くつろぎホール

【外部研修参加状況】

	研修名	参加者
6月	認知症基礎研修（eラーニング）	1名
7月	介護福祉士実習指導者講習会	1名
	安全対策担当者養成研修（eラーニング）	1名
8月	安全対策担当者養成研修（eラーニング）	1名
9月	苦情解決セミナー	1名
	感染管理担当者研修（11月まで）	1名
10月	認知症介護実践者研修	1名
11月	ノーリフティング研修	2名
12月	介護新任職員フォローアップ研修	1名
1月	認知症介護実践者研修	1名
2月	面談者研修	2名
	OJT推進者研修	1名

【市町村別入所者状況】

市町村	高知市	土佐市	南国市	香南市	安芸市	いの町	梶原町	本山町	計
男性	22	3	0	0	0	0	0	0	25
女性	71	3	0	1	0	1	1	2	79
計	93	6	0	1	0	1	1	2	104

※令和6年3月31日現在

【年齢別人員】

性別	～64	65～74	75～84	85～94	95～	合計	最高	平均
男	0	4	10	10	1	25	96	82.9
女	0	5	27	33	14	79	105	87.0

※令和6年3月31日現在

【入退所状況】

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者	男	0	0	2	1	0	1	1	2	3	1	0	1
	女	0	0	4	1	1	3	3	4	1	2	4	1
	計	0	0	6	2	1	4	4	6	4	3	4	2
退所者	男	0	0	4	0	0	2	3	1	2	2	2	2
	女	0	0	4	1	1	4	3	1	2	2	1	1
	計	0	0	8	1	1	6	6	2	4	4	3	3
月末人員	男	31	31	29	30	30	29	26	28	29	28	26	25
	女	75	75	75	75	75	74	75	77	76	76	79	79
	計	106	106	104	105	105	103	101	105	105	104	105	104

【サービス利用状況】

		要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
4月	延べ	0	0	598	1649	598
	実利用	0	0	20	56	30
5月	延べ	0	0	585	1607	883
	実利用	0	0	20	57	29
6月	延べ	0	0	491	1612	883
	実利用	0	0	18	56	30
7月	延べ	0	0	564	1638	839
	実利用	0	0	19	57	29
8月	延べ	0	0	559	1702	839
	実利用	0	0	19	58	28
9月	延べ	0	0	455	1688	726
	実利用	0	0	17	61	25
10月	延べ	0	0	450	1829	744
	実利用	0	0	17	60	24
11月	延べ	0	0	530	1850	707
	実利用	0	0	18	63	24
12月	延べ	0	0	756	1719	703
	実利用	0	0	23	59	23
1月	延べ	0	0	642	1715	736
	実利用	0	0	23	57	24

2月	延べ	0	0	654	1502	698
	実利用	0	0	25	56	25
3月	延べ	0	0	744	1736	744
	実利用	0	0	24	56	24

【年間行事】

月	行 事 名
7月	開園 40 周年記念式典、 防災訓練 ウナギのかば焼き
9月	敬老会（カツオのたたき）
11月	慰霊祭
12月	餅つき クリスマス会
2月	皿鉢の日
3月	ひな祭り

※上記以外に、グループ毎に毎月の誕生日会、クリスマス会、おやつ作り等行ないました。また、3月は随時、桜の花見にドライブに出かけました。新型コロナウイルス感染症対策の為、外部との交流のある行事は実施できませんでした。

※車椅子清掃ボランティア NTT OB 12月3日 19名

2. 短期入所生活介護（ショートステイ）

感染症予防（受入れ時の検温や検査、受入れ後の体調変化等）に努めつつ、可能な限りご利用者やそのご家族の要望に応えることができたと思われる。しかし、今年度もショートステイご利用者から新型コロナウイルス感染症が発覚したことあったが、ご家族に風邪症状がある場合などはショートステイの利用をお断りすることを事前に伝えており、感染拡大を防ぐことが出来た。

またこれまではショートステイの利用人数は11名であったが、職員不足やコロナ等の感染症リスクを考慮し、令和6年10月から定員を5名に縮小し運営する事となった。以前はロングショートや数か月先までの予約調整を行っていたが、キャンセル時の稼働減等を考慮し10月以降は、短期利用者を中心に利用調整を行った。ショート利用数は一時的に減少はしたが空床ショートの受け入れを活用しながら新規利用者数の確保に努めたい。また、定期的にショートステイを利用されている方や以前ショートステイを利用されていた方が、特養やすらぎの家への入所につながったケースも多く、今後も積極的にショートステイの受け入れを勧め入所へと繋げていきたい。

【サービス利用状況（介護保険請求者数による）】

		支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
4月	述べ			15	30	27	79	34	185
	実利用			2	4	3	9	6	24
5月	述べ			30	25	40	51	31	177
	実利用			7	4	4	9	3	27
6月	述べ			12	19	44	33	28	136
	実利用			4	3	7	4	5	23
7月	述べ			41	31	65	50	41	228
	実利用			7	3	5	7	3	25
8月	述べ		5	40	42	59	52	15	213
	実利用		1	5	5	6	5	1	23
9月	述べ			55	40	48	44	37	224
	実利用			5	4	4	7	4	24
10月	述べ			11	39	31	31	47	159
	実利用			2	4	3	3	6	18
11月	述べ			14	30	25	28	32	129
	実利用			2	3	3	5	4	17
12月	述べ			14	28	14	22	19	97
	実利用			3	3	3	5	2	16

1月	述べ			14	26	17	15	22	94
	実利用			3	2	2	4	3	14
2月	述べ			7	16	16	20	18	77
	実利用			1	2	2	4	3	12
3月	述べ			19	0	26	58	14	117
	実利用			3	0	4	6	2	15
合計	述べ		5	272	326	412	483	338	1836
	実利用		1	44	37	46	68	42	238

3. グループホームほのぼのの家

- ① 協力医療機関への通所リハビリを再開したことで短時間ではあるが、外出の機会も増え送迎車の中から見える外の景色を楽しむ様子が伺えた。また、季節の行事や誕生日会等でご利用者の嗜好品を尋ね、職員が料理を手作りするなど、ご利用者の喜んでいる様子や声を見聞き出来たことが、職員の創意・工夫しようとする意欲につながった。今後は感染状況も考慮しつつ、ご利用者が更に楽しめるよう企画し実施していく。
- ② 協力医療機関・訪問看護、拠点特養などと連携を図り、ご利用者に状態変化ある時は報告・相談し、早期受診対応を行う事が出来た。また、歯科受診等かかりつけ歯科への希望の際は、受診・往診してもらうことでご利用者、ご家族の要望に沿うことができた。
- ③ ご家族、周辺地域への開かれた家造りを目指し、ブログ作成・電話対応・面会時には近況報告を通し、安心してもらえるよう努めた。また運営推進会議を通じてご家族、外部の方の意見を聞くことで、感染症対応時のご家族との面会方法や外出支援、行事の様子など参考になる情報交換ができた。また、地域清掃にも参加し周辺地域の方々と会話することで良い交流ができた。
- ④ 防災訓練については災害時や感染症対応等を机上訓練や実地訓練を通して、災害時の用具操作方法など再確認することが出来た。今後は机上訓練を活かした実地訓練で避難対応等が速やかに実施出来るよう頻度を増やし、ご利用者や職員も含めて安全を確保できる対応力を高めていく。
- ⑤ 各種研修については処遇部会で各種委員会の取り組みを行い、職員間で共有することが出来た。今後も拠点特養との研修や外部研修に積極的に参加し、伝達研修を行うことで、グループホーム職員全体のスキルアップ・サービスの質向上を目指す。

(1) 利用状況

介護状態	
要介護1	2名
要介護2	3名
要介護3	4名
要介護4	0名
要介護5	0名

年齢別人数	
80-85歳	0名
86-90歳	4名
91-95歳	3名
96-100歳	2名
101歳以上	0名

入居前状況	
自宅	7名
施設	0名
病院	2名

日常生活自立度	
A1	2名
A2	6名
その他	1名

認知症の程度	
Ⅲa	6名
Ⅱb	3名
その他	0名

【日常生活動作状況】

	歩行	食事	入浴	着脱	排泄
自力	2名	7名		2名	2名
一部	6名	1名	6名	6名	7名
車椅子	1名				
全介助		1名	3名	1名	

(2) 入退所者・入退者状況

	入所者	退所者	入院者	退院者
4月				
5月			1名	
6月	1名	1名	1名	
7月		1名		
8月	1名			
9月				
10月			1名	
11月				
12月	1名	1名		
1月				
2月				
3月				

(3) 活動状況

月	活動内容	人数
4月	誕生日会（誕生者1名）	9名
5月	母の日	9名
6月	紫陽花見学	6名
7月	七夕行事・食事会	9名
8月	ほのぼの夏祭り （たこ焼き、ちらしずし、かき氷、射的、ヨーヨー釣り、輪投げ）	
9月	敬老会（歳祝い1名）	9名
10月	運動会	9名
11月	誕生日会（誕生者1名）	9名
12月	クリスマス会 皿鉢の日	9名
1月	誕生日会（誕生者4名）	9名
2月	節分・誕生日会（誕生者2名）	9名
3月	雛祭り・花見・誕生日会（誕生者1名）	9名

(4) 内部研修

研修内容	開催日	場所	参加者
身体拘束・虐待防止委員会	毎月第2木曜日	ほのぼのの家	全職員
感染予防委員会	毎月第2木曜日	ほのぼのの家	全職員
事故防止委員会	毎月第2木曜日	ほのぼのの家	全職員
新規採用者研修	6月1日・2日	やすらぎの家	1名
	2月8日		1名

(5) 外部研修

研修内容	開催日	開催者	場所	参加者
管理者研修	10月1日 ～10月2日	高知県社会福祉協議会	高知県立 ふくし交流プラザ	1名
感染予防対策の 新しい考え方と 手法・手順	11月20日	医療法人仁泉会朝倉病院	医療法人仁泉会朝倉病院	1名

[2] うららか春陽荘関連事業

[総括]

令和6年度は、「ご利用者一人ひとりが、その人らしく生きがいをもって日々の生活を送ることができる事」を目標に介護に取組み、個人だけでなく、ユニットが、グループが、多職種が関係性を構築し、課題や目標の解決に取り組むことができた。また、感染対策を取りながら、施設の外に出た行事を行うことにより、ご利用者の笑顔を増やす事が出来た1年であった。

運営面では、職員は充足している状況ではないが、ほぼ法人基準の職員を確保することが出来た。しかし、応募の数は少なく、離職者をいかに少なくする為にも、新人職員や悩みを持った職員へのサポートを介護主任を中心に行ってきた。

また、外部研修への参加を増やすことができ、職員にとって刺激が増えた事や新しい発想も増え、より意見交換が活発となった。

経営面では、稼働について特養は、10月にコロナウイルスの感染拡大、1月以降に体調不良者が増えた事により入院が増え、下半期の稼働は不安定な状況が続いた。また、入院中の入居者の退院へのアプローチが遅くなり、2・3日早く退院できた可能性が残る状況が多かった。最終的に前年よりも稼働率を下げた。

それ以外の在宅サービスは、例年よりも改善が見られた稼働率となった。これは、コロナウイルスに対する世間の考え方が緩くなり、利用を控えていた利用者が徐々に戻ってきた事が要因と考えられる。しかし、コロナウイルスが発生する前の稼働状況には戻り切れていない。

1. 特別養護老人ホームうららか春陽荘

令和6年度は、ご利用者一人ひとりが、その人らしく生きがいをもって日々の生活を送ることができるよう、介護サービスを誠実に提供することを目標に、ご利用者の生活歴やペースに合わせた生活ができるよう、ご利用者、ご家族の思いを尊重した施設づくりを目指した。

(1) ご利用者の尊厳を大切にし、思いを汲み取る

ご利用者の思いや願いに傾聴・援助し、多くの事に取り組めた。また、ご本人の行いたい生活の援助等については、家族の協力も得ながら達成できた。

多職種が協力することにより、行事や外出に、多くの入居者の参加に繋げることができた。ただし、援助の部分で、ユニット間でばらつきが発生した事は今後の課題となった。

次年度も関わりを多く持ち入居者・家族から満足される支援を行っていききたい。

(2) 介護力の向上

内部・外部研修を多く行い、知識・技術の向上に繋げられた。ユニットケア研修に参加した職員から伝達研修を行い、グループ全体で共有を行い、目指す施設の方向性を確認できた。次年度は研修で培った学びを現場で活かせる取り組みを行いたい。根拠の部分で課題があり、感覚や思い込みにより発生しているエラーを解消していきたい。今後も座学・研修等を活用し、理解した上でのケアが出来る様に努めていきたい。

【活動実績（入所定員：80名）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 (人)	74.8	73.6	71.4	74.0	77.0	72.8	75.1	75.0	76.0	73.7	71.2	73.9	74.0
稼働率 (%)	93.5	92.0	89.3	92.5	96.3	91.0	93.9	93.5	95.0	92.1	89.0	92.4	92.5

【行事等】

開催月	内 容
4月	お花見
5月	初カツオの薫焼きタタキ
6月	紫陽花観賞
7月	七夕
8月	夏祭り
9月	敬老会
10月	秋桜観賞
11月	作品展
12月	クリスマス会
1月	初詣（種間寺）
2月	節分
3月	お花見弁当

【外部研修】

開催月	内 容
4月	
5月	安全対策担当者養成研修
6月	介護福祉士実習指導者講習会
7月	リスクマネジメント研修
8月	
9月	介護新任職員フォローアップ研修、災害派遣福祉チーム養成研修 福祉サービス苦情解決セミナー
10月	認知症講演会
11月	福祉送迎運転者講習
12月	
1月	ユニットリーダー研修、福祉避難用具講習会
2月	
3月	

【内部研修】

開催月	内 容
6月	能登半島地震の発生に伴う社会福祉施設等に対する介護職員等の派遣 クッションを使ったポジショニング研修
7月	災害訓練（安否確認）、誤嚥性肺炎研修、救命講習
8月	防災訓練、口腔ケア研修
9月	身体拘束・虐待防止研修
10月	災害ワーキング
11月	感染対策研修、ノーリフト研修
12月	福祉車両講習会
1月	
2月	消防訓練、BCP研修、ハラスメント研修
3月	口腔ケア研修、身体拘束・虐待防止研修

2. 短期入所生活介護うららか春陽荘（ショートステイ）

(1) 在宅生活継続の支援

ご利用時には在宅生活が継続できるよう、日常の生活動作を支援、観察しながら、ご家族や担当ケアマネジャーに情報の共有を行うよう努めた。必要時には自法人内のサービスを提案した。

(2) ご家族支援

送迎時や、ご利用前の連絡時等に、ご家族とのコミュニケーションを図り、信頼関係を深めると共に、気兼ねなく相談していただける関係性を築くよう努めた。

(3) 稼働率の安定

2ユニットでの稼働は職員確保が困難であり出来なかったが、居宅介護支援事業所とは情報提供等を行いながら関係性を築く事が出来たので、新規のご利用者の紹介率増には繋がった。コロナの影響等もあり十分ではなかったが、特養の空床利用可能になり受け入れ出来た。

【活動実績 利用定員：10名】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 (人)	9.3	8.9	9.9	9.9	10.0	10.0	7.1	8.4	8.3	8.2	8.4	7.5	8.8
稼働率 (%)	93.0	89.0	99.7	99.7	100	100	71.0	84.3	83.0	82.0	84.0	75.0	88.3

3. デイサービスセンターはるかぜ

全国でも断続的にコロナウイルス感染がある中、日々の感染対策に努め、また、早期対応を行う事で事業所内ではクラスターは発生せず営業する事が出来た。しかし、本年度は事業所内で季節性インフルエンザが流行し、職員・利用者共に数名発症した事案があった。感染拡大には至らなかったが、早期発見・早期対応に努めていきたい。

行事やレクリエーションにおいては、感染対策を行いながら季節感を感じるイベント（鰯の薫焼きやサンマ祭り、夏祭り、運動会）に参加し、普段は交流のないご利用者同士も、イベントをきっかけに会話が弾み、コミュニケーションを図る機会を持つ事ができた。

利用者ご家族との信頼構築の為、日々の送迎時には些細な事でもデイサービスでの様子をお話しし、少しでも会話する事を意識付けた。ご家族との関わりの中で、職員も自然と接遇を意識した対応が出来ていた。

新規利用者獲得において、毎月1件以上の新規利用者がおり体験利用される方に関してはほとんどが利用に繋がっている。事前に、体験利用の方の情報を読み込み、皆で情報共有を行い準備していた事が結果に繋がったと思われる。数名利用に繋がっていない方がいる事から、今後は100%の確率で利用に繋げる事が課題となった。また、新規利用者の獲得は毎月あったものの、病気や転倒による入院者が多かった。体調不良の際は、すぐにご家族やケアマネジャーに連絡を行い、早期受診へ繋ぐ事は出来ていたものの、入院を防ぐ事ができなかったケースも多くあった。住み慣れた自宅での生活が継続できるよう、ご利用者の体調管理をしっかりと行い、少しでも長く利用していただけるよう努めていきたい。

【活動実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均(人)	18.3	18.7	17.5	18.1	18.0	19.8	18.7	19.7	19.0	17.8	17.8	18.0	18.4
稼働率(%)	73.2	74.8	70.0	72.4	72.0	79.2	74.8	78.8	76.0	71.2	71.2	72.0	73.8

【内部研修】

開催月	研修内容
4月	事業計画
5月	災害対策委員「救命講習」
6月	医務「クッションを使ったポジショニング講習」
7月	災害対策委員会「緊急連絡網を使用した安否確認及び参集確認」
	災害対策委員会「令和6年度能登半島地震の発生に伴う社会福祉施設等に対する介護職員等の派遣」
	感染対策委員会「誤嚥性肺炎について」
8月	災害対策委員会「防災訓練」
	事故防止委員会「誤薬について」
9月	身体拘束・虐待防止委員会「事例検討」「利用者の尊厳と自己決定の尊重について」
10月	災害ワーキング
11月	感染対策委員会「感染予防対策」
1月	ハラスメント研修
	「ハラスメントのない職場作り」
2月	災害対策委員会「夜間想定消防訓練」
	災害対策委員会・感染対策委員会「BCP訓練」
3月	身体拘束・虐待防止委員会「身体拘束とは」「高齢者虐待とは」
	上半期総会（事故・褥瘡・感染・身体拘束虐待委員会）

4. デイサービスセンターそよかぜ

認知症の症状を理解することだけでなく、日々の関わりからご利用者の思いを深く知り、安心できる言葉がけを重点に、周辺症状の軽減や安心して過ごせる場所を提供するように努めた。今年度は、同法人の他事業所とのリモート合同勉強会に取り組むことで、柔軟な考え方や対応、適切なケアを提供するための意見交換ができ、実際のケアに反映できた事例も多々あり、有意義な勉強会になった。今後ご家族を含めた支援や専門性の高い認知症ケアを提供することを目的に、独自の勉強会を実施していく。

ご家族支援では、積極的にコミュニケーションを図り関係性を築くよう努めた。しかし、伝達方法の仕方や方法の見直しの必要性を感じた。勉強会を通して、家族の思いの理解を深め情報共有の重要性を考え、ご家族の負担を共有、軽減できるように努めたい。

運営に関しては、居宅介護支援事業所に足を運び、新規利用者獲得に努め、前年度と比べると稼働率は上がっているものの目標には届かず、今後も継続して小まめな情報共有等を行い居宅支援事業所との関係を築き新規獲得へ繋げる。

【活動実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均 (人)	8.8	7.6	6.6	6.4	6.4	7.0	7.1	7.8	8.5	7.1	6.4	6.5	7.2
稼働率 (%)	73.3	63.3	55.0	53.3	53.3	58.3	59.2	65.0	70.8	59.2	53.3	54.2	59.9

【外部研修】

開催月	開催地	研修名	主催者	参加人数
6月	オンライン	分かりやすい説明の仕方	高知県社会福祉協議会	1名
8月	オンライン	コミュニケーション基礎研修	高知県社会福祉協議会	1名
9月	高知市	アセスメント	高知県社会福祉協議会	1名
	高知市	記録の書き方	高知県社会福祉協議会	1名
10月	高知市	認知症対応型管理者研修	高知県社会福祉協議会	1名
	高知市	診断後支援の取り組みとBPSDに対する治療を改めて考える	高知市医師会事務局	1名
	高知市	レクリエーション	高知県社会福祉協議会	1名

【内部研修】

開催月	研修内容
4月	事業計画
5月	災害対策委員昌「救命講習」
6月	医務「クッションを使ったポジショニング講習」
7月	災害対策委員会「緊急連絡網を使用した安否確認及び参集確認」
	災害対策委員会 「令和6年度能登半島地震の発生に伴う社会福祉施設等に対する介護職員等の派遣」
	感染対策委員会「誤嚥性肺炎について」
8月	災害対策委員会「防災訓練」
	事故防止委員会「誤薬について」
9月	身体拘束・虐待防止委員会 「事例検討」「利用者の尊厳と自己決定の尊重について」
10月	災害ワーキング
11月	感染対策委員会「感染予防対策」
1月	ハラスメント研修「ハラスメントのない職場作り」
2月	災害対策委員会「夜間想定消防訓練」
	災害対策委員会・感染対策委員会「BCP訓練」
3月	身体拘束・虐待防止委員会 「身体拘束とは」「高齢者虐待とは」
	上半期総会（事故・褥瘡・感染・身体拘束虐待委員会）

5. 高齢者住宅等安心確保事業（横浜ニュータウン）

高齢者の方も増えてきており、通院や入退院をされる方々も増えてきた。巡回する際には世間話等もしながら健康状態を確認し、注意喚起する事が出来た。相談者を居宅介護支援事業所やその他の関係機関に繋ぐ事が出来た。

昨年より再開したいきいき百歳体操は参加者も増えた。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
生活指導	実	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安否確認	実	20	20	20	20	20	20	22	22	21	20	20	21	246
	延	220	228	208	231	214	213	247	204	159	178	170	181	2,453

家事 援助	実	14	10	6	13	12	8	12	6	6	5	9	10	111
	延	71	68	54	73	51	84	64	45	50	41	46	38	685
緊急時 対応	実	0	0	1	1	0	0	0	2	2	1	1	0	8
	延	0	0	1	1	0	0	0	2	2	1	1	0	8
関係機関 との連絡	実	2	3	1	5	2	1	2	12	2	2	1	0	22
	延	2	3	1	5	2	1	2	1	2	2	1	0	22
その他	実	7	6	6	6	0	7	6	6	6	7	9	9	75
	延	12	12	11	10	0	14	21	20	22	23	29	27	201

6. うららかキッズガーデン

4月当初2名からのスタートとなり定数確保にむけ継続して営業活動をしていく。保護者とは情報交換を密に行い、生活習慣や発育について個々に応じた支援を行う事ができ、次年度にもつなげていきたい。コロナ禍でもキッズのみで各行事を行い施設行事も見学する事ができた。事業所特性でもある高齢者との交流は、感染症に配慮しながら、少しずつ夏祭りや敬老会等にも参加できた。

【入所児童数 定員 11名】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職員	0歳												
	1歳												
	2歳												
地域	0歳								1	1	2	2	2
	1歳												
	2歳	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計		2	2	2	2	2	2	2	3	3	4	4	4

- ① 個々の健康状態や子どもたちの様子を見て、日々の計画や保育士の配置を変更するなど柔軟な保育を行った。異年齢児との関わりの中で大きな成長が見られた。
- ② 保護者とは送迎時の会話や連絡帳を通して、園での様子を細かく伝え育児相談を受けることも多く保育士として専門性を生かした助言や個々に応じた支援を行う事が出来た。
- ③ 職員間では、月1回の職員会議、毎日のミーティング、伝言ノートを活用して共通理解を図った。
- ④ 令和6年度意見受付対応件数 0件

【研修参加状況】

月	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加者
4	高知市	第1回乳児保育研修	乳児の保育・保健・栄養の基礎知識の習得	高知市保育幼稚園課	1
6	高知市	プール管理講習会	プールの安全と衛生管理	高知市保育幼稚園課	1
6	高知市	食育研修会	給食における衛生管理 備蓄の必要性	高知市保育幼稚園課	1
6	高知市	アレルギー対応研修	アレルギー発生時の対応 について	高知市保育幼稚園課	1
9	高知市	乳児保育研修	保育所の役割について	高知市保育幼稚園課	1
10	高知市	救命救急講習会	救命救急の演習	高知市保育幼稚園課	1

【キャリアアップ研修】

保護者支援・子育て支援	1名
保健衛生・安全対策	1名
障害児保育	1名
食育・アレルギー対応	1名

【幼保研修】

主任保育士・幼稚園教諭等研修	1名
中堅教諭等資質向上研修	1名（園内研修）
保育者基礎研修	1名（園内研修）

【研修参加状況（内部）】

災害講習（能登半島地震でみた福祉施設）	1名
救命講習（7月）	1名
防災訓練（12月）	1名
感染対策・災害対策・BCP訓練（2月）	1名
消防訓練実施	1名

[3] 在宅介護センターわかくさ関連事業

1. デイサービスセンターくつろぎの家

ご利用者一人一人に合わせた個別レク（脳トレ、パズル、塗り絵等）を提供し、毎月のカレンダー作りでは、ご利用者と職員で協力し楽しみながら創作活動を行った。また、千羽鶴を制作して隣接する朝倉第二小学校の児童に手渡しし、修学旅行で平和記念公園に納めてもらい、地域交流再開の第一歩となった。

身体機能面では、平行棒などを使用し歩行訓練や手指訓練、ペダル漕ぎや滑車等の機能訓練を実施するとともに、洗濯物干し、たたみ、食器洗い、おぼん拭き等の生活リハビリを取り入れ、身体機能維持・向上を図ることができた。

食の面では、ご利用者からの要望を取り入れた献立による「くつろぎ御膳」を毎月実施、大変好評であり、食欲増進や「食」への関心に繋がったと考える。

認知症ケアについて困りごとがあった際は、認知症専門であるわかくさの家に対応方法について相談する機会を設け、ケアに生かしていくようにした。

経営に関しては、体験利用より新規利用に繋がるケースもあったが、入院されるご利用者が多かったため、1年を通して稼働率が上がらない結果となった。今後、更なる新規利用者獲得が課題となった。

【要介護度別利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	12	15	15	16	15	17	16	15	17	17	18	16	189
要介護2	11	10	11	10	10	9	9	8	9	10	9	10	116
要介護3	11	9	7	6	8	7	8	8	9	8	7	7	95
要介護4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	47
要介護5	3	4	4	3	4	3	3	5	5	4	4	4	46
合計	41	41	41	39	41	40	40	40	44	43	42	42	194
1日平均	18.8	17.6	18.0	17.0	16.7	18.6	18.0	19.2	19.4	16.6	17.9	18.5	18.0
平均介護度	2.3	2.2	2.2	2.1	2.2	2.1	2.1	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2

【総合事業利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	0	0	14
要支援2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1	26

【職員研修報告】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	事業計画・接遇について	
5月	介護事故防止について①	
6月	熱中症について（伝達） 食中毒予防について 入浴介助研修①	
7月	介護事故防止について②	
8月	介護技術について	介護事故の再発防止策検討会 （1名）（リモート）
9月	BCP研修（防災・感染症）BCP訓練（防災） 精神科医から見た「薬」～薬の効果・依存 について（伝達）	高齢者虐待防止・権利擁護研修（1名） （リモート）
10月	季節性感染症の予防、まん延防止について BCP訓練（感染症） 高齢者虐待防止・権利擁護研修（伝達）	
11月	防災講習（高知市消防局）	
12月	身体拘束廃止・虐待防止について 防災講習（伝達） 認知症セミナー（伝達） 入浴介助研修②	
1月	※感染拡大予防にて中止	
2月	認知症ケアについて 介護事故の再発防止策検討会（伝達） アンガーマネジメント研修（伝達）	
3月	ハラスメント防止について	

【行事等】

4月	誕生会・くつろぎ御膳
5月	誕生会・くつろぎ御膳・母の日・防災訓練
6月	誕生会・くつろぎ御膳・父の日
7月	誕生会・くつろぎ御膳・七夕
8月	誕生会・くつろぎ御膳・夏祭り
9月	誕生会・くつろぎ御膳・敬老会
10月	誕生会・くつろぎ御膳・運動会・防災訓練

11月	誕生会・くつろぎ御膳・焼き芋
12月	誕生会・くつろぎ御膳・クリスマス&年忘れ会
1月	誕生会・くつろぎ御膳・初笑い
2月	誕生会・くつろぎ御膳・節分
3月	誕生会・くつろぎ御膳・桜の花見・防災訓練

2. デイサービスセンターわかくさの家

認知症の症状を理解するとともに、個々のご利用者の生活歴や価値観、日々の関わりからご利用者の思いを深く知り職員間で情報共有を行った。そして、周辺症状を未然に防ぐことを重点的に統一したケアを実施し、安心して穏やかに過ごせる場所の提供を心掛けた。

また、在宅生活を支えてくれているご家族を支援するため、送迎時にはご家族とのコミュニケーションを積極的に図り、ご自宅での生活状況や日々の状態把握、他事業所との連携をとり、介護負担軽減に努めた。

より専門性の高い認知症ケアを提供できるよう、法人内の同じ認知症対応型デイサービスである「そよかぜ」と認知症勉強会を定期的にリモートで実施、内部研修でも認知症ケアについて講義を行う機会を持つ事でスキルアップに繋がった。

事業所内では感染対策を継続しつつ、行事や活動を行い、ご利用者の「笑顔」の場となり、職員の喜びに繋がったと感じている。また、創作活動で制作した千羽鶴は隣接する朝倉第二小学校の児童に手渡しし、修学旅行で平和記念公園に納めてもらい、地域交流再開の第一歩となることができた。

経営に関しては、下半期に新規利用者がなく、入院されるご利用者が多かったため、稼働率が上がらない結果となり、定期的な新規利用者獲得が今後の課題となった。

【行事等】

4月	誕生会
5月	誕生会・母の日・防災訓練
6月	誕生会・父の日
7月	誕生会・七夕・土用の丑の日
8月	誕生会・夏祭り屋台メニュー
9月	誕生会・敬老会・運営推進会議
10月	誕生会・ミニ運動会・防災訓練
11月	誕生会・介護の日
12月	誕生会・クリスマス会

1月	誕生会・わかくさ神社（おみくじ）
2月	誕生会・バレンタインクッキング
3月	誕生会・年度末お楽しみ会・桜の花見・防災訓練・運営推進会議

【要介護利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	6	6	6	6	5	4	3	3	3	3	4	3	52
要介護2	7	7	9	9	9	9	9	8	8	8	6	6	95
要介護3	4	4	4	4	4	3	4	4	5	5	5	5	51
要介護4	3	3	3	3	3	3	2	3	2	2	1	1	29
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	21	21	23	23	22	20	19	19	19	19	17	16	239
1日平均	10.3	9.9	10.8	10.6	9.6	9.1	9.0	10.1	10.5	8.9	8.8	8.9	9.7
平均介護度	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4	2.4	2.4	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4

【職員研修報告】

	内部研修	認知症勉強会	外部研修
4月	事業計画・接遇について		
5月	介護事故防止について①	事例検討そよかぜより ホールで過ごすことができない利用者対応（リモート）	
6月	熱中症について（伝達） 食中毒予防について 入浴介助研修①		
7月	介護事故防止について②	事例検討わかくさの家より 多動・大声・介護拒否のある利用者対応（リモート）	
8月	介護技術について		介護事故の再発防止策検討会 （1名）（リモート）
9月	BCP研修（防災・感染症）BCP 訓練（防災） 精神科医から見た「薬」～薬の 効果・依存について（伝達）	事例検討そよかぜより 若年性認知症の利用者対応 （リモート）	高齢者虐待防止・権利擁護研 修（1名）（リモート）

10月	季節性感染症の予防、まん延防止について BCP 訓練（感染症） 高齢者虐待防止・権利擁護研修（伝達）		認知症講演会「診断後支援の取組と BPSD に対する治療を改めて考える」（1名）
11月	防災講習（高知市消防局）	事例検討わかくさの家より 他利用者への迷惑行為、職員へのセクハラ行為のある利用者対応（リモート）	
12月	身体拘束廃止・虐待防止について 防災講習（伝達） 認知症セミナー（伝達） 入浴介助研修②		認知症介護実践者研修（1名）
1月	※感染拡大予防にて中止		
2月	認知症ケアについて 介護事故の再発防止策検討会（伝達） アンガーマネジメント研修（伝達）		
3月	ハラスメント防止について	利用者対応と業務の進め方（リモート）	

3. 小規模多機能型居宅介護わかくさ

本年度も感染対策遵守に努め事業への影響なく1年を終える事が出来た。感染は年中聞かれている為、今後も気を緩めることなく早期発見、早期対応に努め感染拡大を防ぎたい。

運営面では職員をリハビリ班とレクリエーション班に分け、ご利用者の日中の過ごし方にメリハリをつける取り組みを行っており、ご利用者個々に合った1日の過ごし方が徐々に提供出来るようになってきておりケア向上に繋がったと思われる。今後も研修等に積極的に参加し職員のスキルアップをしながらサービスに還元できるように努める。また、本年度は職員が声を掛け合えていれば防げていた介護事故が数件発生している為、今後、職員間の連携を強化し未然に事故を予防できるスキルを身に付ける。

地域の行事へも感染状況を考慮しながら参加出来ており、少しずつ地域との関係性を取り戻している。来年度も感染予防を対策し地域行事へ積極的に参加していきたい。

経営的には新規相談の介護度が要介護1や要介護2の方が大半を占めており、年度当初か

ら平均介護度が上がらなかったが、登録中のご利用者で加齢により介護量の増えた方や福祉用具のレンタルで限度額オーバーするご利用者をご家族や関係機関と協議し区分変更申請をかける事で徐々に平均介護度も上がり年度終わりには目標に到達出来ている。登録定員の目標も達成はしているが、ご利用者の入れ替わりが激しく待機者がいない状態となっている為、今後も、引き続き他事業所、医療相談室等へ足を運びアピールに努めながら、自居宅や包括と密な関係を築き、待機者の確保を図りたい。

【行事】

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブスルー花見（車内換気を行い少人数でドライブ） ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・福祉アカデミー実習生受け入れ
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・防災訓練 ・平成福祉専門学校生施設見学
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・運営推進会議（第1回）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・運営推進会議（第2回）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・小規模わかくさよさこい祭り（感染対策を行い事業所内で実施）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会（各事業所にて感染対策を行いながら催す） ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・運営推進会議（第3回）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・防災訓練 ・福祉アカデミー実習生受け入れ
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・運営推進会議（第4回） ・センター炊き出し訓練 ・町内会清掃参加
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・クリスマス会（感染対策を行い事業所内で実施） ・町内会防災訓練参加 ・町内会餅つき参加
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・運営推進会議新型コロナウイルス感染拡大にて中止 ・福祉アカデミー実習生受け入れ
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・運営推進会議（第5回） ・防災訓練

【介護度別利用者数】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	6	6	6	7	7	6	5	5	5	5	4	4	66
要介護2	8	8	8	9	8	10	10	11	10	10	7	7	106
要介護3	7	7	7	7	6	6	6	5	4	4	5	5	69
要介護4	7	7	7	7	6	5	5	4	5	4	7	7	71
要介護5	1	1	1	1	2	3	3	4	5	6	6	5	38
合計	29	29	29	31	29	30	29	29	29	29	29	28	350
平均介護度	2.62	2.62	2.62	2.55	2.59	2.63	2.69	2.69	2.83	2.86	3.14	3.07	2.74

【機能別延利用状況】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通い	433	444	467	405	449	441	467	430	443	403	352	406	5,140
訪問	643	683	668	639	613	589	645	597	607	588	508	472	7,252
宿泊	107	106	130	103	83	71	137	131	121	99	85	94	1,267
合計	1,183	1,233	1,265	1,147	1,145	1,101	1,249	1,158	1,171	1,090	945	972	13,659

【研修報告（内部・外部）】

月	内部研修・勉強会	外部研修
4月	事業計画・接遇について	
5月	介護事故防止について①	
6月	熱中症について（伝達）	
7月	食中毒予防について	
8月	介護事故防止について②	高知県災害時の心のケア活動（1名）
9月	BCP研修（防災・感染症）BCP訓練（防災） 精神科医から見た「薬」～薬の効果・依存について（伝達）	・高知県要介護施設中堅・リーダー職員対象 高齢者虐待・権利擁護研修（1名） ・医師・訪問看護ステーション・ケアマネージャーの交流会（1名）
10月	季節性感染症の予防、まん延防止について BCP訓練（感染症） 高齢者虐待防止・権利擁護研修（伝達）	高知県小規模多機能型サービス等計画作成 担当者研修（1名）

11月	防災講習（高知市消防局）	・アンガーマネジメント研修（1名） ・福祉送迎運転者講習会（1名）
12月	身体拘束廃止・虐待防止について 防災講習（伝達） 認知症セミナー（伝達）	
1月	※感染拡大予防にて中止	高知県認知症介護実践者研修座学研修 （1名）
2月	認知症ケアについて 介護事故の再発防止策検討会（伝達） アンガーマネジメント研修（伝達）	
3月	ハラスメント防止について	・高知県認知症介護実践者研修実習報告（1名） ・社会福祉施設総合保険制度説明会（2名）

4. くつろぎの家 訪問入浴サービス

令和6年度における新規利用者は9名。新規受け入れ等が前年度に比べ減少傾向の理由として長期入院者が少なくご利用者の状態が安定していた事もあり、稼働率を維持する事ができた。また、サービス提供地域が高知市、土佐市、いの町と広範囲だが、時間調整やルート確保をする事で1日5件の訪問ができ、急遽の空き枠に対しても祝日の振り替えやターミナル依頼を受ける等、1人でも多くの方に「癒し」の時間を提供する事ができた。

職員の休暇時に他部署から応援に入ってもらった際でも統一した援助が行えるよう応援基盤を作り応援職員に配分や利用者の細かい情報を伝達する等の取り組みを行ったが、応援職員が固定されていない事もあり、まだまだ改善の必要性がある。

本年度も「サービス満足度調査」をご利用者及びご家族に対し実施し、貴重なご意見などを頂き、今後、更なる入浴サービス・職員の質・意識向上に努め、よりよいサービス提供を目指す。

【介護度別利用者数】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	3	4	4	0	0	15
要介護3	0	3	4	5	4	4	5	4	4	4	0	1	44
要介護4	19	27	26	29	23	25	31	20	19	19	16	16	273
要介護5	55	42	46	49	46	45	48	47	50	45	49	55	570

障害	11	13	12	13	12	11	13	11	12	11	9	12	142
計	85	85	88	96	85	85	97	85	89	83	74	87	1,044
1日平均	4.0	4.0	4.4	4.4	4.0	4.5	4.4	4.3	4.5	4.4	3.9	4.4	4.3
平均介護度	4.8	4.5	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.76	4.5	4.5

【職員研修会】

月	内部研修・勉強会	外部研修
4月	事業計画・接遇について	
5月	介護事故防止について①	
6月	熱中症について（伝達） 食中毒予防について	
7月	介護事故防止について②	
8月	介護技術について	
9月	BCP研修（防災・感染症）BCP訓練（防災） 精神科医から見た「薬」～薬の効果・依存 について（伝達）	若年性認知症の利用者対応 （リモート）（事例検討そよかぜより） 高齢者虐待防止・権利擁護研修（1名）
10月	季節性感染症の予防、まん延防止について BCP訓練（感染症） 高齢者虐待防止・権利擁護研修（伝達）	
11月	防災講習（高知市消防局）	
12月	身体拘束廃止・虐待防止について 防災講習（伝達） 認知症セミナー（伝達）	
1月	※感染拡大予防にて中止	
2月	認知症ケアについて 介護事故の再発防止策検討会（伝達） アンガーマネジメント研修（伝達）	
3月	ハラスメント防止について	

5. 高知市在宅介護支援センター あさくら（居宅介護支援事業所）

(1) 心豊かな生活の表現

新型コロナウイルスも少しずつ落ち着き始め、以前のように介護保険サービスを使い、生活を支援してもらいながら住み慣れた地域で過ごす生活スタイルとなってきた。介護保険サービスを使う事で介護者の介護負担も軽減してきており、サービスの利用率は増大傾向になってきている。

介護保険サービスの利用をされるご利用者も増えてきており、ご利用者の身体機能低下の防止、介護者であるご家族への介護負担の軽減にも重視しながら支援する事が出来ていた。

(2) 介護支援専門員としての質の向上

事業所内での週1回の定例会は実施し、困難なケースに関しては一人で悩まずに事業所内の主任介護支援専門員を中心に全員でケアマネジメントの方向性やサービスの適正を確認出来た。今年度は新人ケアマネージャーの加入もあり、各職員が交替で指導・人材育成に努める事が出来た。質の向上の研修では各職員が積極的に参加する事で学べ、また事業所内の定例会で伝達する事で全ケアマネージャーにも理解を得る事が出来ていた。

(3) 関係機関との連携強化等

同センターに併設の朝倉地域包括支援センターと共にご利用者の相談に協力する事ができ、ご利用者の獲得も積極的に実施する事が出来た。併設部署の朝倉包括との連携も取りやすく、相談もしやすい為、共に行動する事も出来ており、ご利用者にとっても安心して相談出来る体制作りが出来たと思う。地域とのつながりの部分ではコロナ禍の影響で引き続き、地域との交流という部分では機会は少ないままではあるものの感染対策を講じながら地域の清掃活動等に参加する事が出来た。ご利用者からの介護相談では朝倉包括からの依頼は出来る限り多く受け付ける事が出来ていた。

医療機関との連携の部分ではコロナ禍の時と比較すると、入院中のご利用者にもお会いする事が増え退院前カンファレンスの開催も実施する事が出来ているので退院帰宅後のサービスの調整がスムーズに出来るようになりつつある。まだリモートによるカンファレンスもあるものの細かい申し送りを報告して下さる事でサービス調整もスムーズに出来るようになった。

(4) 新規利用者様の確保・相談援助

ご利用者の確保に関しては併設の朝倉地域包括支援センターからの依頼や一般の方からの相談、病院地域連携室からの依頼により、連携を取る事が出来ました。朝倉包括からの依頼は月平均で約3件～7件程の新規利用者を支援させて頂く事が出来ていた。また医療関係機関へ営業に行き、声掛けさせてもらう事で医療機関からの依頼を受け付ける事が数件出来ていた。令和6年度では積極的に色んな事業所からの新規依頼も受け付ける事が出来ている。

(5) 感染症・災害への対応力強化・事業継続計画 (BCP)

感染症に対応に関しては新型コロナウイルスも5類となり、以前のような生活スタイルに戻りつつある。インフルエンザでも以前と変わりなく対応する事が出来ていた。困っている家族とはまめに相談する事で代替サービスや他のサービスも提供等で介護者・ご利用者の負担軽減を図る事が出来た。

事業継続をしていく為に災害発生時を想定した炊き出し訓練や福祉避難所の設営訓練等を通して必要な物や必要な動きを確認する事が出来、充実した訓練を実施する事が実現出来た。

【介護度別請求件数】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	56	55	62	60	55	56	60	59	61	66	64	64	718
要介護2	41	39	46	48	47	42	44	39	39	42	42	45	514
要介護3	14	16	15	14	18	22	18	23	19	26	20	19	224
要介護4	9	6	5	5	5	6	6	5	6	7	7	5	72
要介護5	3	6	3	3	3	3	4	3	2	1	2	4	37
計	123	122	131	130	128	129	132	129	127	142	135	137	1,565
平均介護度	1.9	1.9	1.9	1.8	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.9
予防・総合	27	28	29	27	25	26	26	26	27	23	26	26	516
合計	150	150	160	157	153	155	158	155	154	165	161	163	1881

【職員研修等】

月	内部研修・勉強会	外部研修
4月	事業計画・接遇について	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 (1名) 介護支援専門員定期総会 (1名) 地域ケア会議 (1名) 主任介護支援専門員資質向上研修 (1名)
5月	介護事故防止について①	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 (1名) 介護予防支援従事者研修会 (1名)
6月	熱中症について (伝達) 食中毒予防について	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 (1名) 地域ケア会議 (1名) 主任介護支援専門員資質向上研修 (1名)

7月	介護事故防止について②	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 西部地域医療カンファレンス（1名）
8月	介護技術について	高知市居宅介護支援事業所多職種連携西部ブロック研修（1名） 入退院の引き継ぎルール（1名） 地域ケア会議（1名） 主任介護支援専門員資質向上研修（1名）
9月	BCP研修（防災・感染症）BCP訓練（防災） 精神科医から見た「薬」～薬の効果・依存について（伝達）	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名）
10月	季節性感染症の予防、まん延防止について BCP訓練（感染症） 高齢者虐待防止・権利擁護研修（伝達）	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 難病学習会「筋委縮性側索硬化症」（1名） 地域ケア会議（1名） 主任介護支援専門員資質向上研修（1名）
11月	防災講習（高知市消防局）	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名）
12月	身体拘束廃止・虐待防止について 防災講習（伝達） 認知症セミナー（伝達）	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 地域ケア会議（1名） 主任介護支援専門員資質向上研修（1名）
1月	※感染拡大予防にて中止	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 難病学習会「パーキンソン病」（1名）
2月	勉強会 「認知症について」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 地域ケア会議（1名） 西部地域医療カンファレンス（1名） 主任介護支援専門員資質向上研修（1名）
3月	勉強会 「救急法」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 入退院医療連携事業報告会（1名） 複数事業所事例検討会（4名）

6. 高知市朝倉地域包括支援センター

令和6年3月より事務職員、4月からケアマネジャー、8月より生活支援コーディネーターを配置、多様な業務の実施が効果的かつ効率的に行えるよう努めた。

(1) 総合相談・支援

様々な住民・機関からの多岐にわたる相談を受け付け、信頼関係構築、相談内容の適格な把握、緊急性判断、課題を明確化し適切なサービス利用や機関・制度への繋ぎ支援を三職種で検討しながら行った。

令和5年度の相談実人数1,590名、対応延べ件数9,146件であったのに比較し、令和6年度は相談実人数1,681名、対応延べ件数8,657件、相談件数が増加。地域包括支援センター業務が開始となり3年経過し地域住民や関係機関へ相談窓口としての周知ができていていると感じている。

(2) 権利擁護，高齢者虐待防止支援

令和6年度虐待疑いの通報受理・対応件数は14件。虐待認定された件数12件。昨年度と比較し通報・対応・支援件数同様。常に権利擁護の視点を持ち業務にあたることを意識、権利侵害を受けていると思われるケースの相談があった際には早期に対応の検討を行った。

また、高知市・医師会作成のツールを活用した意思決定支援の啓発を実施する等にて関係機関や住民から気になる事例の相談を寄せてもらえる体制作りに努めた。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

個別ケース支援を通じ介護支援専門員や医療機関との連携や協力体制強化に努め、医療機関やケアマネジャーからの相談対応件数が年間延べ298件に増加（昨年度288件）した。

(4) 地域ケア会議推進事業に関する業務

偶数月に定期地域ケア会議を開催。随時の会議開催は適当なケースがなく実施できなかった。地域ケア会議開催後には、地域包括支援センター西部ブロック会で推進会議を実施、他地区の包括支援センターや基幹型地域包括支援センター職員と共に地域課題の整理・検討を行い、生活支援コーディネーターを中心に課題解決へ向けて可能なことから取り組みを開始した。

(5) 指定介護予防支援及び介護予防・生活支援サービス事業業務計画

今年度から配置のケアマネジャーによる契約件数、計39名。介護予防ケアプラン作成件数、計148件。介護予防給付対象となる要支援者等が適切なサービス利用ができるように相談員と連携、研修に参加する等にてアセスメント力向上に努めた。

地域の介護予防活動はいきいき百歳体操を中心に生活支援コーディネーターが継続支援等を実施。地域住民等から新規の百歳体操立ち上げ希望の声が上がっており支援している。

(6) 在宅介護・医療連携推進事業

入退院支援事業や、高知市在宅医療介護支援センター主催の研修会に積極的に参加、居宅介護支援事業所・訪問看護・医療機関等関係機関との連携強化に努めた。また、個別ケースを通じて相談しやすい関係作りの構築をこころがけた。

(7) 認知症高齢者支援

高知市の認知症施策の動向を踏まえ計画を作成・修正しているが、施策が決定してなかった面もあり実行していくことが難しかった。認知症地域支援推進員の活動も同様に基幹型地域包括支援センターの方向性が定まらず活動は中途半端に終わった。

そのような中で認知症サポーター養成講座は機会を捉えて実施、地域住民と認知症カフェ開始へと働きかけることができた。

(8) 生活支援体制整備事業

朝倉第二小学校区地域内連携協議会地域課題把握部会や福祉委委員の会、朝倉まちづくりの会といった既存の会議に関与することで、地域ケア会議や個別事例対応の際や地域活動で把握した課題を住民と共有、課題解決に向けて提案を行った。その中で‘地域カフェ’の開催を地域住民と協働し開催した。

7. 生活援助員派遣事業（シルバーハウジング若草町）

若草南町の市営住宅内のシルバーハウジングの入居されている方を中心に、日常的な相談や介護の相談、安否の確認等を関係機関と連携をとりながら活動を行ってきた。

訪問対応については、引き続き感染対策を行いつつ、安否確認等を行った。

また、緊急通報システム導入業者と連携を取りながら対応を行った。

○活動内容

生活指導・相談	安否の確認	一時的な家事援助	緊急時の対応	関係機関との連絡	その他
10件	931件	3件	24件	12件	227件

○緊急通報・・・誤作動（4件）、緊急対応（3件）

緊急対応	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレで転倒し右脚打撲、意識はあるが、救急車を要請する。 ・ライフリズム警報の連絡があり、訪問し対応する。 ・部屋で転倒し腕腰損傷、意識はあるが、救急車を要請する。
------	----	---

Ⅲ 児童福祉関連事業

【総括】

2024年の全国の出生数は9年連続過去最少であり、少子化は政府想定より15年速いペースで進んでいる。高知県は全国最少で、少子化は園児数の減少に大きく影響する。

本園の園児数の減少も急速に進んでいる。令和6年度4月に新入園児4名を迎え、園児数91名でスタートした。年度途中で0歳児10名、1歳児2名、2歳児1名を受け入れ、年度末の園児数は104名となった。しかし、年度末に保護者の転勤や引っ越しにより8名が転園・退園した。

保育活動では、子どもの主体性を尊重する保育、粗大・微細運動の発達を養う活動、思いやりや譲り合いの心の醸成を大切に取り組んだ。保護者には、子どもの成長を実感できるような保育の可視化をはかった。保護者からは、子どもの心身の成長を感じる毎、職員の細部にわたる配慮と保育に対し、感謝と労いの言葉をいただいた。

また、今年度も春野東小学校及び近隣の児童福祉施設4園と積極的に交流した。子ども達は就学への期待感が高まり、保護者は就学への不安解消となっている。保幼小架け橋プログラムの3年間の取り組みは、文部科学省より高く評価された。また、他園と保育を見合うことにより、保育者のスキルアップにもなった。令和6年度でプログラムは終了となったが、今後もこの取り組みは継続する。

健康面では、コロナウイルス感染の園内感染は一切なかったが、子どもは感染のリスクが高く、インフルエンザ、手足口病、マイコプラズマ肺炎などの感染が確認され、その都度保護者にお知らせするとともに、日頃から衛生管理に努め、安心安全な保育環境の整備を心がけた。

保護者支援においては、核家族化、子育て家庭の地域からの孤立、子育て不安の増加等、子育てをめぐる環境に変化はなく、「一時保育」「病児保育」「子育て支援センター」「放課後児童クラブ(3か所)」をこれまで同様開所することにより、保護者のニーズに応えた。

少子化により園児数減少は否めないが、これまで培ってきた伝統を継承するとともに、子育て世帯の潜在的ニーズの掘り起こしと、子どもの未来を視野に入れた独自性ある保育園づくりが課題である。

[1] うららか保育園 関連事業

活動報告

基本方針、保育目標、めざす子ども像を念頭に置き、「保育」「食育」「発育」の3つの育ちに努めた。

「保育」ー子どもの主体性を尊重する中、月齢、年齢に応じた自然と親しむ活動、からだを使ったあそび、製作などを通して、粗大・微細運動の発達につながる保育に取り組んだ。

また、思いやりや譲り合いの心を育てる異年齢交流も積極的に行った。

年長児は、他園の園児や小学生との交流を通して、探求心、協調性、自己発揮する力を育んだ。加えて、道徳性や規範意識の芽生えを醸成した。また、「生命の誕生や性」について助産師よりお話をいただき、性の違いや命の大切を学んだ。

他、四季折々の行事をはじめ、誕生会、お点前（年長児）、英語で遊ぼう（年長・年中・年少児）、学研教室のまなびタイム（年長児）などを計画的に実施した。

保護者には、「園だより」「クラスだより」を月1回配布するとともに、「ドキュメンテーション」を掲示し保育の様子や子どもたちの姿等を視覚的に伝えた。

「食育」－献立において、栄養のバランスや年齢に応じた食材の大きさ、素材の味を生かした食事の提供、食材の安全性や品質などの検討を毎月行った。アレルギー除去対象児に対しては、主治医が記入した「アレルギー疾患生活管理指導表」に基づき、多職種協同により誤食防止に努めた。また、給食時間に調理員がクラスを訪問し、子どもたちが食物の生産や調理にかかわる人に感謝する心が育つようにしてきた。年長児は育てた野菜を給食で提供してもらい、野菜が育つ喜びと育てた野菜を味わう楽しさを体験した。

「発育」－身体測定（2か月毎）、内科・歯科健診（年2回）、尿検査・視力検査（幼児組年1回）を実施し、結果を家庭に報告した。口腔衛生については、4歳児、5歳児クラスで昼食後にフッ化物洗口を行い、齲歯防止に努めた。

感染対策は、室内の環境整備、手洗い・手指消毒の徹底、登園時の体調観察を行うとともに、園の保健衛生に関する情報を発信した。

保育中に発熱や嘔吐・下痢などの症状がみられた場合、児を体調不良児対応室で保護者の迎えまで、看護師が児の体調の変化に留意しながら安静保持に努めた。

リスクマネージメントについては、今年度も「保育中の怪我や事故の防止」「睡眠中の乳幼児突然死症候群（SIDS）予防」「災害への備え」の3点を重点に取り組んだ。

「保育中の怪我や事故の防止」－重大事故の発生はなかったが、受診が必要な怪我が7件あった。受傷直後、保護者に報告したうえですみやかに受診し丁寧に対応した。他にも、子どもの予測できない行動や子ども同士のトラブルから怪我に発展することがあり、事の大小にかかわらずその都度保護者に丁寧な報告した。

「睡眠中の乳幼児突然死症候群（SIDS）予防」－乳児は入園から2週間慣らし保育をお願いし、子どもの環境の変化によるストレス除去に努めた。また、入眠中は15分毎に呼吸、体位、顔の向きを観察・記録し事故防止に努めた。

「災害への備え」－突然の火災や地震・台風などの自然災害に備え、月1回避難訓練を実施するとともに、備蓄の確認及び補充を行った。また年2回「防災だより」を発行し、保育中の災害発生を想定して、保護者への連絡手段として活用できる「災害伝言ダイヤル171」

「伝達一斉発信システム（コミュなび）」による情報伝達訓練を年2回実施した。「災害伝言ダイヤル171」の体験率は15%、情報伝達一斉発信システム（コミュなび）の既読率は60%であった。災害発生時、園は的確に情報を保護者に発信できるよう、保護者は冷静に情報収

集できるよう、今後も訓練を実施し不測の事態に備えていきたい。

さらに、5月の参観日に、災害発生時の緊急連絡カードに基づく園児の引き渡し訓練を実施した。新入园児の保護者も戸惑うことなく、スムーズで確実に子どもを引き渡すことができるよう、定期的に保護者共同の訓練を今後も実施していく。

交通安全は、警察の協力のもと幼児クラスを中心に交通安全教室を年2回実施した。

防犯対策については、警察署の「生活安全企画課」担当を招き、職員と園児に向けて、それぞれ講話をいただいた。今後、不審者侵入を想定した訓練を実施することにより、子どもたちと自身の身を守る対策を徹底したい。

職員の資質向上のための研修は、会場集合型に加えてZOOM、アーカイブ研修が増えたことにより、同じ研修を複数の職員が受講することができている。公開保育は、5歳児クラスと2歳児クラスで実施した。行政や他園の保育士が参加し、意見交換や討議を行い、個々の視点の違いから保育士の質の向上を図った。

実習は、保育実習1名、小児看護実習15名、職場体験実習1名を受け入れた。

保護者会は、保護者会役員が主体的に活動した。中でも、地域交流を目的とした「うららかマルシェ」は多くの集客があり、園のPRの機会となった。

【園児入园状況と園児数（定員130名）】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	1	4	4	5	7	8	8	9	10	10	10	11
1歳児	16	16	16	16	17	18	18	18	18	18	19	18
2歳児	17	17	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18
3歳児	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
4歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
5歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
合計	91	94	94	94	98	100	100	102	103	103	104	104

【保育日数】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
日数	25	24	25	26	26	23	26	24	24	23	22	25	293

土曜日（7:30～19:00）を土曜登園として実施しており、実質の休日は日曜・祝日および年末年始（12/30～1/3）である。

【主な行事報告】

月 日	行 事 名	月 日	行 事 名
4月1日(月)	第23回入園式・始園式	11月8日(金)	秋の遠足
4月13日(土)	親子遠足	12月5日(木)	木曜日
5月11日(土)	こいのぼり参観日	12月6日(金)	お餅つき
6月26日(水)	プール開き 神事	12月20日(金)	クリスマス会
7月13日(土)	夕涼み会	1月21日(火)	マラソン集会
7月26日(金)	年長 野外活動(仁淀川)	2月3日(金)	節分集会
8月20日(火)	総合避難訓練	2月22日(土)	第23回発表会
9月7日(土)	なかよし参観日	3月4日(木)	年長児 交通安全教室
10月12日(土)	第23回運動会	3月7日(金)	お別れ遠足
10月15日(火)	交通安全教室	3月21日(金)	修了式・お別れ会
10月24日(木)	防犯教室	3月22日(土)	第23回卒園式
11月3日(日)	年長 春野町文化祭参加	3月25日(火)	総合避難訓練

毎月一誕生会、避難訓練、お点前(年長)、英語で遊ぼう(幼児組)、まなびタイム(年中・年長)

【保健関係】

内 容	実 施 日
尿検査	幼児組 4月19日
内科健診	春季-5月17日、24日 秋季-10月18日
歯科健診	春季-6月19日 秋季-11月13日
視力検査	幼児組 11月27日、12月2日、3日、10日

2ヶ月毎一身体測定(0歳児は頭位測定を含む)

【体験学習・保育実習等受け入れ状況】

学 校 名	月 日	人数
高知中央高等学校衛生看護専攻科 小児看護実習	5月9日~5月15日	15名
	6月13日~6月19日	
	6月20日~6月26日	
	6月27日~7月3日	
美作大学 生活科学部 児童学科 保育実習Ⅱ	6月17日~6月27日	1名
高知県立日高特別支援学校 現場実習	6月3日~6月21日	1名
	10月7日~10月25日	

[2] うららか保育園 特別事業関連

活動報告

子育て家庭のニーズに応じ、「延長保育」「一時保育」「子育て支援センター」「病後児保育」「体調不良児対応型保育」を実施し、育児の不安解消や負担軽減につとめ親支援を行った。

(1) 延長保育事業（利用時間 18 時 30 分から 19 時）

補助金対象外のため、利用料金（2,000 円/月）の集金収益により実施している。最近は、育児休暇中の短時間保育の家庭の利用が増えている。家族の就労や核家

族化等により、生後間もない乳児を連れての送迎が難しいことから増加している。月平均 5 名ほどの利用があった。

(2) 一時保育（クローバー）

他園の一時保育は、1 歳を迎え離乳食完了後からとなっている中、本園は 5 ヶ月から受け入れをしている。そのため、0 歳児の登録が利用児の 8 割を占める。子育て支援センター「うららかなかよし広場」利用者より、保護者の育児による精神的・肉体的疲労、出産時の兄・姉の育児、家族介護・看護等の悩みが寄せられ、一時保育事業を紹介し利用につながったケースが多い。また、知人からの口コミによる問い合わせも多数あった。利用の理由の多くは、リフレッシュで、他、出産や断続的・短期的就労により利用される家庭もあった。

一時保育は、月齢・年齢により一日の利用人数が変動する。月齢が低いと一日 3 名までのお預かりとなる。利用の希望が集中した日は、人数調整が必要で希望に添った受け入れができないことがあったため、ニーズに応じた受け入れができる体制の整備が課題となった。

【利用状況】

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延人数	71	82	64	69	34	40	63	51	46	46	46	30
平均	3.6	3.9	3.2	3.1	1.5	2.1	2.9	2.6	2.3	2.4	2.5	1.6

(3) 子育て支援センター「うららかなかよし広場」

育児講座は、助産師、保健師、栄養士の外部講師による相談会や保育園看護師による毎月の身体測定など、子どもの健康や発達に関する内容から、リラクゼーション、創作、調理など保護者の興味的なイベントを計画・実施した。ほとんどのイベントが、受付と同時に定員が埋まる状況であった。

小学生は、子育て支援センター利用対象外で、小学校のいる家庭は長期休暇中、利用しづらくなる。長期休暇中限定ではあるが、小学生のいる家庭も利用できる日を設定し、南ヶ丘コミュニティーセンターでカレーパーティーを実施した。楽しく調理、食事して交流でき好

評だった。

また、利用者の紹介で「おもちゃ病院」の担当者と繋がり、壊れたおもちゃの修理のために来園していただき地域交流活動を実施することができた。今後も地域の方を招いた地域交流を広げていきたい。

なかよし広場の様子は、日々InstagramにアップしてPRしている。現在のフォロワー数は423人で、徐々に増えている。今後、活動内容のアップ方法を工夫し、フォロワー数、来所者数を増やしていきたい。

【育児講座等の実施】

月	内 容
4月	えいごリトミック、骨盤矯正ヨガ
5月	スクラップブック、離乳食教室(栄養士)
6月	ベビーマッサージ、育児相談(助産師)
7月	七夕手形アート、は・は・はの話(歯科衛生士)、フレームキャンドル
8月	育児相談会(保健師)、小学生 welcome カレーパーティー
9月	防災セミナー、ウォールグリーン作り
10月	バランスボール体験、ハロウィンフォトブース
11月	離乳食教室(栄養士)、クリスマスリース作り
12月	スマホフォト講座、しめ縄作り、クリスマス会
1月	豚まん作り、育児相談会(保健師)
2月	節分集会、お雛様手形足形アート
3月	初めてのミシン入門編、お別れ遠足

・毎月の行事ーよちよちランド・身体測定

【利用状況】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延人数	68	61	85	78	73	74	84	65	66	44	49	82
平均	3.2	2.9	4.3	3.5	3.7	3.9	3.8	3.3	3.3	2.3	2.7	4.1

(4) 病児、病後児保育事業 (ラベンダー)

令和6年度は、伝染性単核球症 (EBV)、ヒトメタニューモウイルス感染症 (hMPV)、伝染性紅斑、マイコプラズマ肺炎といった疾患が流行し、病児保育利用に至った。利用の多くは、季節にかかわらず風邪症候群で、全体の4割を占める。インフルエンザウイルスは12月から1月に利用が集中し、定員を超える問い合わせがありお断りすることがあった。

【利用状況】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延人数	13	8	16	24	9	13	15	9	25	11	4	6	153

【疾患別割合】

風邪症候群（気管支炎、咽頭炎、上気道炎等）	39%
インフルエンザウイルス感染症	17%
感染性胃腸炎	14%
RSウイルス感染症	8%
手足口病	6%
溶血性レンサ球菌感染症	5%
その他（マイコプラズマ肺炎、hMPV感染症、EBV感染症）	11%

(5) 体調不良児対応型病児保育事業（スイトピー）

保育中の急な発熱や体調不良による利用が主となる。保護者の就労によりすぐに迎えに来る事が出来ない園児の観察、安静の保持による利用がほとんどであった。

【利用状況】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延人数	6	2	13	33	12	8	10	14	21	7	13	9	148

【3】 放課後児童クラブ関連

活動報告

児童クラブ毎、環境や利用する児童の特性に違いがあり、情報の共有を目的に月1回定例会を開いた。その中で、各児童クラブの様子や、気になる児童のかかわり方や運営上の悩み、工夫点などを共有し、児童クラブ運営の向上をはかった。

入学・進級から2ヶ月は、環境の変化や通学による疲れ等から注意散漫、友だちとのトラブルが多くあったが、児童の特性を把握し、個別のかかわりを行うと共に、支援員が同じ姿勢で指導することで徐々に落ち着き、概ねクラブのルールを守って過ごすことができるようになった。

支援員には、感染防止対策や熱中症予防、日常的におこる怪我の手当から心肺停止時の対応に至る救急法について講習等を行い、児童の健康管理と安全の確保に努めた。

発達障害など特別な配慮を要する児童には加配支援員を配置し、児童が、見通しがもてるよう視覚支援により対応した。しかし、下校から帰会までの間に怪我や思いがけない行動、トラブルが発生した。下校という学校と児童クラブの両者の管理が行き届かない場面での課

題が浮き彫りとなった。そこで、学校と児童クラブが密に連携して児童の安全の配慮に努めた。

今後も、研修等を通して支援員のスキルアップをはかるとともに、学校との連携を密にばかり、児童が居心地の良い環境づくりに努めたい。

(1) 春野東小学校放課後児童クラブ

【利用状況】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21	22	21	22	21	20	23	21	21	20	19	21
在籍者数	52	50	50	50	50	49	48	48	46	43	43	43
延人数	78.4	76.9	79.6	74.5	46.9	80.7	76.4	77.0	72.8	77.2	74.7	65.0

(2) 春野西小学校放課後児童クラブ

【利用状況】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21	22	21	22	21	20	23	21	21	20	19	21
在籍者数	45	44	43	43	45	44	44	42	42	40	39	39
延人数	82.7	77.1	81.9	76.8	56.4	78.2	77.6	79.9	78.1	79.0	84.1	76.3

(3) 春野東小学校南ヶ丘第一放課後児童クラブ

【利用状況】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21	22	21	22	21	20	23	21	21	20	19	21
在籍者数	37	36	36	35	35	34	32	33	29	28	28	27
延人数	81.4	78.8	77.2	76.3	62.9	73.2	79.6	72.5	66.5	79.1	79.9	74.0

[4] 職員研修参加状況

月	研修名(内容)	主催者	参加職種	参加人数
4	第1回乳児保育研修【会場・アカイブ】	高知市	保育士	6
	特別支援担当保育士等研修会	高知市	園長・保育士	3
	保幼小接続に関する研修Ⅰ期	高知市	保育士	1
5	施設長研修	高知市	園長	1
	保育者基礎研修Ⅱ期-1	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(マネージメント)	高知県	保育士	1
6	アレルギー対応研修【会場・アカイブ】	高知市	栄養士	1
	特別支援担当保育士研修会	高知市	保育士	1
	キャリアアップ研修(保健衛生・安全対策)	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援)	高知県	保育士	1
	第1回地域子育て支援センター研修・交流会	高知市	保育士	1
	プール管理講習	高知市	保育士・看護師	2
	病児保育事業の連絡会及び情報交換会	高知市	看護師	1
	食育研修	高知市	園長・栄養士 調理員	4
	園評価に関する研修報告	高知県	保育士	1
7	保育者基礎研修Ⅱ期-2	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(障害児保育・特別支援教育)	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(マネージメントⅡ)	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(保健衛生・安全対策Ⅱ)	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(食育・アレルギー対応)	高知県	保育士	1
	救命講習	高知市	園長・看護師	2
8	キャリアアップ研修(食育・アレルギー対応Ⅱ)	高知県	保育士	1
	倫理講習	園内	全職員	26
9	南海トラフ地震対策研修会	高知県	保育士	2
	保育者基礎研修Ⅱ期-3	高知県	保育士	1
	春野中央保育園公開保育	高知市	保育士	1
	高知県保育士会 研修3	保育士会	保育士	1
	第2回乳児保育研修【会場・アカイブ】	高知市	保育士・看護師	5
	キャリアアップ研修(保健衛生・安全対策Ⅲ)	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援Ⅱ)	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(食育・アレルギー対応Ⅲ)	高知県	保育士	1

	体調不良児対応型病児保育事業担当看護師 オリエンテーション	高知市	看護師	1
	防犯・不審者対応研修	園内	全職員	17
	キャリアアップ研修（障害児保育・特別支援教育）	高知県	保育士	1
10	キャリアパス対応生涯研修過程（初任者）	県社協	保育士	1
	キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援Ⅱ)	高知県	保育士	1
	特別支援加配保育士(D配置)研修会	高知市	保育士	1
11	保育者基礎研修Ⅱ期-4	高知県	保育士	1
	保育所における食物アレルギー児への対応研修	園内	全職員	24
	特別支援担当保育士研修会（ABC配置）	高知市	保育士	1
	第57回 全国保育士会研究大会	保育士会	園長・保育士	4
	キャリアアップ研修(マネージメントⅢ)	高知県	保育士	1
	感染症研修	高知市	看護師	1
12	石立保育園公開保育	高知市	保育士	1
	保育所児童保育要録について～理解と書き方～	高知県	保育士	2
	人権研修	高知市	保育士	1
	第2回地域子育て支援センター職員研修・交流会	高知市	子育て支援員	1
	高知県保幼小の架け橋プログラムシンポジウム	高知県	園長・保育士	5
1	救急法	クラブ内	児童クラブ支援員	7
	救命講習	園内	全職員	24
	特別支援担当保育士研修会（ABC配置）	高知市	保育士	1
2	子育て支援員フォローアップ研修	高知市	子育て支援員	1
	特別支援加配保育士(D配置)研修会	高知市	園長・保育士	2
	子育て支援員ブロック別研修（中央西地区）	高知市	保育士	1

Ⅲ 公益事業

[1] 介護福祉士養成施設 関連

1. 平成福祉専門学校

(1) 教務

本年度の介護福祉士国家試験は、クラス全体での学習や模試に加え個別指導も行い、2年生21名全員が受験し20名の合格で、残念ながら1名が不合格となり、95.2%の合格率となった。

学習では、コロナウイルス感染症に注意し対面での授業を行い、感染予防対策を継続しつつ、家族等の感染が発覚した際には、WEBを活用した受講環境を整え、活用している。また、介護福祉士国家資格以外の資格取得として取り組んでいる、住環境コーディネーターやケアコミュニケーション検定などの資格に対する合格率の向上と、学外で行う介護福祉実習の質的向上を考慮し、授業科目の時期の見直しや、学内定期試験を含め、補講等による学力向上を積極的に行い取り組んでいるが、学生状況や動向に合わせた継続的工夫が必要である。学外授業では、福祉機器展への参加やVR体験など、体験を通し介護の現状と課題を、より深く学習できるよう努めた。

施設実習では、法人内外の福祉施設に協力を得ながら実施することができたが、コロナウイルス感染症により施設内感染が発生し、実習開始直前や期間中、余儀なく施設変更するケースもあった。1年生の第2段階実習では、施設実習指導者と教員による指導と面談を重ね、施設実習を終えているが、課題等の達成と合格基準レベルへ到達することができず、改めて同実習を行うこととなった学生があり、施設実習に対する事前事後における学内教育の検討と見直しを行い、再実習となった学生への基準クリアに向けた指導を行っている。

ボランティア等の校外活動については、コロナウイルス感染症への感染に注意し、施設実習や学内試験等を優先と考え、可能な範囲で参加した。次年度も幅広い分野での活動に参加し、さらなる思考力・表現力の向上を目指したい。

学生状況については2年生で1名の退学者があった。本人、家族ともに別分野への就労を希望しており、意向を尊重した結果であった。1年生は、学内試験の合格基準に届かない学生が複数名あるが、教員による本人と家族への面談、各科目の特別補講を実施し、合格基準到達へと繋げることにより、退学を防ぐことができた。

学生自治会活動は、感染対策を講じながら校内外で1、2年生が交流する機会を設け、関係構築を行うことができた。

【令和6年度 学生数】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
2年生	22	22	22	22	22	21	21	21	21	21	21	21

【令和6年度 卒業生就職状況】

種別	人数
社会福祉法人	12
医療法人	6
組合立・町立	2
県外（社会福祉法人）	1
株式会社	0
未就職	0
留年	0
計	21

(2) 学生募集

40名定員に対し14名の入学生を迎えた。延べ106校の高校訪問を行い、介護福祉士の必要性と体験入学への参加周知、奨学金等の周知を行った。訪問時には、説明会や体験入学へ参加した高校生の様子や質問等、個別対応した内容についての報告と説明を行った。

高知県専修学校各種学校連合会や業者開催で行う学校説明会は、高知県内の高等学校や高知県内のホテル等で行われ、合計22回の説明会に参加し、延べ61名の高校生に説明を行った。また、福祉教育授業については、高知県内5校で延べ14回実施し、学校説明等のほか、SNS等のWEBを活用した募集活動を強化した。

しかし、少子化の影響は年々強く、高校の進学は、大学進学を主軸としており、県内外を問わず、専門学校は学生確保が厳しい現状となっており、本校の令和7年度入学予定者は19名にとどまっている。

(3) 総務

学費や寮費などの納入に関しては、学生の奨学金制度利用状況を個々に把握し、円滑に処理を行うことができた。その他の経費については、必要なものを検討し、節約に取り組むことができた。

2. 介護福祉士実務者研修

本年度は11名が受講し全員が研修を修了した。受講案内の送付先を拡大し周知に努めた
が、各施設での有資格者は増加しており、受講者が減少する現状がある。だが、実務経験者
が介護福祉士を受験する際、実務者養成研修の受講は必須要件であるため、問い合わせには
丁寧に対応し、社会福祉協議会の貸付事業の案内も併せて行うなど、受講者が増加する取り
組みを実施している。

3. 高校生就職支援事業（介護初任者研修）

高知県委託である本事業では、訪問型研修として春野高校・城山高校の2校と集合型研修
として本校で行う計3会場で実施した。計38名が受講し36名が修了し、本校へ進学とな
った生徒は5名であった。また、高校卒業後、介護分野へ就職する生徒もおり、今後も継続
し、より多くの受講生の確保と周知が必要である。